

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 大正区
学校名 中泉尾小学校
学校長名 辻 信行

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中泉尾小学校では、第6学年55名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、国語科においては、平均正答率は全国平均値を上回った。算数科と理科においては、平均正答率は全国平均値を下回った。平均無解答率は、各教科ともに、全国平均値を下回っており、児童が粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。

国語科を評価の観点別に見ると、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の正答率はいずれも全国平均値を上回っている。また、問題形式別に見ると、「記述式」の正答率が全国平均値を大きく上回っており、児童が自分の考えや答えを文章で的確に表現できていることを示している。

算数科を評価の観点別にみると、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の正答率は、いずれも全国平均値をやや下回っている。また、問題形式別に見ると、「選択式」の正答率が全国平均値を下回っており、課題となっている。

理科を評価の観点別にみると、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の正答率は、いずれも全国平均値をやや下回っている。また、問題形式別に見ると、「記述式」の正答率は全国平均値を上回っているが、「選択式」と「短答式」の正答率は全国平均値を下回っており、課題となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語科を学習指導要領の内容別にみると、「我が国の言語文化」、「話す聞く」、「書く」の事項では、全国平均正答率を上回った。また、「読む」の事項では、全国平均正答率を下回っており、課題と考えられる。

〔算数〕算数科を学習指導要領の領域別にみると、「数と計算」、「図形」は、全国平均正答率を上回った。「測定」、「変化と関係」、「データの活用」は、全国平均正答率を大きく下回っている。これは、問題の読み取りが正確にできていないために、「変化と関係」の数値を把握できていないことや、「データの活用」を図ることができていないことを示している。問題を正確に読み取る力の定着を図るために、習熟度別少人数指導や自学自習を推進する「寺小屋ランド」の取り組みを効果的に進めていく必要がある。

〔理科〕理科を学習指導要領の区分・領域別にみると、「エネルギー」領域が、全国平均正答率を大きく下回っている。また、「粒子」、「生命」、「地球」の各領域も、全国平均正答率をやや下回った。

個人別で見ると、各教科で全国平均正答率を大きく下回っている児童がいる。より丁寧な指導と支援を繰り返し、低学力の児童の底上げ図ることが課題となる。そのために、学力向上支援チーム事業を活用し、特に経験年数の短い教員の指導力と授業力の向上を図るとともに、校内でのメンター研修と人権教育研修を充実させる。また、第3ブロックの学力推進事業を活用し、教員の研修への積極的な参加を促すとともに、学びサポーターを活用して、学力支援の必要な児童に対しては、手厚く指導する。

質問調査より

「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」と「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という基本的な生活習慣を問う質問に対しては、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。また、「自分には、よいところがあると思いますか」と「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。「学校に行くのは楽しいと思いますか」と「友達関係に満足していますか」と「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」の質問では、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。さらに、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問では、肯定的な回答の割合が100%である。

「道徳」、「総合的な学習の時間」、「学級活動」等の学習における「話し合い活動」や「アウトプットする取り組み」に関する質問では、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている項目が多い。児童は、友達や学級での話し合いと様々な体験活動を通して対話的に学び、より深く探究的に理解を深め、アウトプットする表現活動に取り組んでいることがわかる。本校が大切してきた「ほんまもん教育」を通じての「探究的な学び」が浸透していることがわかる。

今後の取組(アクションプラン)

本校の学力が伸びてきたのは、これまで行ってきた学力向上に関連しての大坂市の事業や区役所の施策を積極的に活用したところが大きい。また、校内で継続的に行っている習熟度別少人数学習や放課後学習などによる一人一人へのきめ細かい指導と支援の効果が高いと考えている。さらに、家庭との連携により、基本的な生活習慣や家庭学習などの学習習慣が定着しつつあることも大きな要因であると思われる。

今後も、教育講演会の実施や学校HP「校長室の窓」での学力向上に関する配信を通して、各家庭の学力に関する興味と関心を高められるようにする。また、総合的読解力育成カリキュラムの実践や本物に触れる「ほんまもん教育」の取り組みを本校の教育の柱として、取り組んでいく。「自分たちで問を考え、自分たちで解を見つけ、新しい価値観を育んでいく」という新しい学力観の定着を図りながら、子どもたちが主体的に対話的に学び、より深く探究的に学ぶことが楽しいと思う教育を推進する。